

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年9月14日(木) 10:00~12:00
- 3 開催場所 関特別支援学校 大会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

	会 長	ダーリンプル・規子	桜花学園大学保育学部教授
	副会長	澤井 基光	岐阜県民生委員児童委員協議会会長
	委 員	深見 大輔	同窓会会長
		梅村 美紀	Man to Man Animo 株式会社マネージャー
		清水 恵子	各務原市福祉の里所長 (欠席)
		高木 哲	岐阜県立ひまわりの丘第一学園次長
		丸山 香枝	P T A会長
		水野 友有	中部学院大学人間福祉学部准教授
		森藤 由幸	関市民生委員
		吉田 純也	株式会社Fデザイナーズ代表取締役 (欠席)
	学校側	渡辺 政幸	校長
		井原 誠	教頭
		佐橋 朋子	事務部長
		上村 篤	小学部主事
		飯田 直樹	中学部主事 (欠席)
		高橋こう子	高等部主事 (欠席)
		則竹 裕子	教務主任

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 新規作業製品価格について

- ・直径9cm、厚さ5mmのコースターに、購入者自身で絵付けをし、後日完成品を渡すという形での販売を行う。

意見1：どの学習場面で行うのか。

⇒学校祭での体験、販売を予定している。

意見2：価格を200円の設定としているが、原材料は絵具代924円、シート代671円とある。これらの原材料でいくつか製品ができるということか。

⇒この原材料内で購入者に絵付けをしていただく。

意見3：製品1個あたりの原材料費を生徒に計算させて、製品の価格設定をさせるとよい。

意見4：前回の意見にもあったが、この活動が子どもたちの教育になるのであれば、すべてを生徒と考えていくことが大事だと思う。生徒の能力にもよるが、価格設定の考え方も一緒に勉強していけるとよいと思う。今回の価格設定はこれでよい。

⇒生徒は「産業社会と人間」「課題研究」の授業の中でこの活動を行っている。今後、製品の価格設定も一緒に考えていくことも検討していきたい。

意見 5 : これまで、このような形式で行ったことはあるか？

⇒今回が初めての試みである。

意見 6 : 来校者は学校関係者のみなので、まずはやってみてご意見をいただくとよい。体験型の製品としては価格が非常に安い、この価格設定で良い。

意見 7 : 製品の受け渡し方法はどのようなのか？

⇒後日来校していただき、対面で渡すことを考えている。

意見 8 : 素焼きコースターの体験はとても良いが、再度受け取りに来るのは再考の余地がある。例えば、発送するために送り状を書いてもらうことも考えてよい。届く楽しみもあると思う。

意見 9 : 作業製品について、せっかく取りに来てくれるなら、そこで仕掛けを一つ考え、楽しんでもらえるように工夫できるとなるとよい。

意見 10 : 体験型販売について、売り上げを伸ばすことだけが良いことかどうか。それとも、人とのつながりを大事にするのか。数字にとらわれ過ぎず、もう 1 回来校してもらえるチャンスがあるなど、教育としてのつながりのようなものが学校祭でできるのは良いと思っている。

(3) 学校課題について

- ・児童生徒数が年々減少傾向にあることに加え、令和 7 年度に各務原特別支援学校が開校し、各務原市在住の児童生徒がそちらに転学することもある、さらなる減少が予想される。
- ・職員の専門性を担保するため、職員間コミュニケーションの円滑化を図れるように様々なアイデアを出して取り組んでいる。職員同士で学び合う試みを行っている。
- ・児童生徒の障がいや重度・重複化・重症化している。現在呼吸器の児童が 2 名在籍。来年度はさらに増える見込み。カニューレ抜去への対応も含めてこれまでにない課題が出てきており、看護師、養護教諭、教員が連携して解決に向けて取り組んでいる。

意見 1 : 職員研修を工夫してやっているのはすばらしい。先生たち自身の研修へのフィードバックはあるのか？

⇒中間評価のような形で実施後アンケートをとり、集計結果を示して研修内容や方法を修正している。

意見 2 : 専門性の向上の一つとして、外部機関（企業）とつながることも考えるとよい。研修日に学校の先生が企業に来てくれるのもよいと思う。

意見 3 : 特別支援学校が新たにできると、職員の異動があり、職員数が少なくなる状況で専門性の担保ができるか心配である。

意見 4 : 専門性とは何だろうか、専門性を高めるために取り組むことが大事な一方で、専門性を追求していくと、相談等があったときに私は専門外なので担当ではないと言われてしまう弊害もあるのではないかと。一人の人間を育てる大きな目標があるとよいと思った。

(4) 授業・児童生徒への支援について

意見 1 : バリエティに富む授業を参観させていただいた。感覚的な体験、視覚的な体験など、いろいろな学びをしているのだと実感した。

意見 2 : 生の授業風景で子どもたちの表情が見られてよかった。支援している先生も一生懸命に、また工夫してやっていることが感じられた。地元の学校と Teams を使って授業を行っているのはとても良いと思った。学校教育の場を離れたとき、地元は一つのポイントだと思っている。そういった機会が週に 1 回あるのはとても良い。

意見 3 : Teams の活用がよかった。Web で常につながっているソフト (ovoice) もある。いつでもやりとりができるものなので、活用も考えていけるとよい。

- 意見 4 : 手厚い支援ありがたい。県庁での販売に重度重複の生徒も一緒に行けるとよいと思う。そういった場に行くことで、子どもを知ってもらえることができる。地域との関わりについて、小学校へ転学するお子さんがいると聞いた。自分の地域の学校で過ごせるのは大きく喜ばしい。そんな機会を今後もぜひ作ってほしい。
- 意見 5 : 障がいの特性等を把握した上で、きめ細かな学びの場を提供している。その学びが児童生徒の中でつながっていることを実感した。入所施設も障がいの重い方が入ってきており、家族支援が必要だと感じている。学校と連携しながら「生徒のために」を共通認識として、取り組んでいきたい。
- 意見 6 : 我が子がお世話になって 11 年目。こうやって手厚くやってもらってきたのだとしみじみ感じた。特にこの 2 年間の生活が充実していると感じている。家庭、学校、訓練の 3 つが大切だと思っており、この 3 つがうまく機能しているのは、先生たちが熱心に連携しながら取り組んでくれているからだと思う。学校で過ごす時間は長いので、子どもたちのケアをよろしく願いたい。親の学びも大切。今後、PTA で親の学びの場を設けていきたい。
- 意見 8 : 児童生徒の意思を尊重した取組が印象に残った。しかし、高等部生徒に「ちゃん」付けで呼ぶ場面があった。「さん」付けで呼んであげるとよい。医療的ケア児も「医ケア」と省略せずに呼んであげられるとよい。

(5) 会長挨拶

みなさんの貴重なご意見が聞けるよい時間だった。ここには肢体不自由、病弱のお子さんがある。隣の学校には高校生が通っているわけだが、どの子どもと関わる際にも共通して大事なことがある。人との関わり、向き合い方など、共通する部分がどんどん耕されていけるとよい。家族と一緒に育て、一緒に楽しむことも大事なこと。「一緒に育てる」視点をもってほしい。

6 会議のまとめ

学校祭での新規作業製品価格について、適正な価格であると承認を得たが、生徒と一緒に価格設定を考える、商品の受け渡しを、つながりをつくる場面として設定するなど新しいアイデアを得た。

授業や児童生徒の支援については、改めてきめ細かく、手厚い支援を継続して行っていると評価を得た。特に、Teams を使って地域の学校と授業交流していることに高い評価を得た。在学中から地域とつながっていくことの大切さを再認識した。

学校課題については、職員の専門性の向上について多くの意見を得た。専門ということで狭くならないで、一人の人間を育てる、家族や地域と一緒に育てるという大きな視点で見えていくことが大切さであると指摘を受けた。